

## 巻頭言

わたしたちが災害や危機管理について、真剣に考えるようになったひとつのきっかけは、2011年に日本の東北地方を見舞った「東日本大震災」でした。未曾有の自然災害と、それに続く原子力発電所の放射能被害に、わたしたちがすくんでしまったのはいうまでもありません。その時にわたしたちが得た教訓は、いつ襲ってくるかわからない災害に対して、少なくとも被害を最小限にするために備えること、そして、ひとたび危機が到来したら、それに効率的に対応することがいかに重要かということでした。

自然災害のみならず、大規模な交通事故や、テロ行為など想定される危機的な状況はほかにもたくさんあります。災害その他の危機管理の重要性を痛感し、大学生に何ができるか、それをどのように発信して共有するか、震災が引き起こしたさまざまな波及現象を問題意識として、お茶の水女子大学では、2012年度以降、震災のあった3.11の時期に、被災国日本に各国の学生が集い、今や地球規模で頻発する自然災害や、それにとまなうさまざまな危機とその対応、さらには持続的可能な復興援助活動について、ローカル／グローバルに考える場として、各国の学生が積極的に意見を交換する「国際学生フォーラム」を開催してきました。6年目となる今年のテーマは「災害と危機管理ーグローバルなネットワークの構築に向けて」ということで、世界5ヵ国（韓国・中国・タイ・アメリカ合衆国・ポーランド）、7大学から参集した15名の学生と、本学学生参加者12（履修生7）名が、震災や原子力発電所についての知識を深めるスタディーツアーにいっしょに参加し、また、東日本大震災の被災地である陸前高田市を訪問した本学の学生による実習の報告や、被災者と復興活動に関わる人々の話を聞くという体験を共有し、さらに参加者全員が、本学においてプレゼンテーションおよび討論を行い、震災復興と国際連携についての理解を深め、同時に何ができるかといった提言を行いました。

参加した学生は、自国が見舞われた災害の状況や、災害救助・復興援助活動の実際を調査して報告し、また、他国の災害と危機管理の状況を知ることで、大学生として、災害地の復興にどのような活動が可能か、どのような貢献ができるかを真摯に討論し、さらに災害危機管理の知識と対応の実際について、各国が情報を共有することで大きく広がる国際連携の可能性についても検討し、その重要性を認識することができました。出自も母語も異なる参加学生が日本語および英語を共通言語として意見を交換し合うことで、さまざまな視点を提供・共有し、それまでには思いもつかなかったクリエイティブなアイデアが次々生まれるというエキサイティングな経験を通して、参加学生が、グローバルな意識とダイバーシティのもたらす創造性の広がりとその重要性を実感できたことがなによりの収穫

であったと思います。10日間という短い期間ではありますが、参加学生は、災害という大きなテーマをめぐって、実際にシミュレーション体験を含むスタディーツアー、報告会・講演会／討論、発表／ディスカッション等、災害と危機管理に関して、密度の濃い受信および発信の体験を全員が共有しました。そのことで、参加学生同志に強いきずなが形成されたことが、目に見えてわかり、みなさんがたいへん充実した時間をもてたことを、心からうれしく思います。

2012年度に本学は文部科学省のグローバル人材育成推進事業に採択され、以来、学生のグローバル力を強化するさまざまなプログラムを推進しています。本フォーラムもこの事業の一環として位置づけられ、震災という我が国の現在および未来を左右する重大な出来事を、グローバルとローカル、両方の視点から捉え、未来につなげることでできるグローバルな若手人材を育成するという、本事業の目的に資する成果を上げられたことをたいへん喜ばしく思います。

フォーラムの企画・推進にあたっては、原由紀恵グローバル人材育成推進センター特任助教の行き届いた運営・進行により、内容の充実したフォーラムとなりましたことに深く感謝しております。また、本学文教育学部グローバル文化学環の報告会および講演と討論会を開催してくださった小林誠教授、熊谷圭知教授にも御礼を申し上げます。また、いつも本学学生ボランティアスタッフと密に連絡をとり、来日する学生に不自由のないようにと、細やかな手配をしてくださったグローバル教育センターの長塚尚子アカデミックアシスタント（AA）、同・阿久津典子 AA、グローバル人材育成推進センターの高柳磨美 AA、相羽美代子 AA にも記して御礼申し上げます。最後に、フォーラムに出席するために震災や危機管理について熱心に調査し、フォーラムに臨んだ各国からの学生のみなさん、そして彼／女らを迎えるために、猛勉強するだけでなく、空港への送り迎えや歓送迎会の準備、東京見学ツアーのロジ等、周辺企画も自ら進んで計画し、時間をかけて準備してくれた本学学生ボランティアスタッフのみなさん、ほんとうにお疲れさまでした。若いみなさんが、このフォーラムで得た貴重な経験と成果を、今後も継続的な活動へと展開し、グローバルな舞台でさらに活躍されることを願っています。

2017年2月15日

お茶の水女子大学グローバル教育センター長  
戸谷陽子